

# 旧石器時代の変遷

森田尚宏

(高知県埋蔵文化財センター)

## 1. はじめに

高知県における旧石器時代については遺跡も少なく、西日本全般に言えることであるが、土層堆積も不良であり、発掘調査により層位的に遺物を検出することが困難な場合が多いため、基本的な石器群の編年と位置付けについては不十分な点が多い。しかしながら、西南四国を中心とする分布調査や高速道路建設による奥谷南遺跡の発掘調査のように新たな資料が増加しており、高知県内の状況だけではなく、西日本における旧石器研究の視野の中に南四国も入ってきたものと考えられる。中でも奥谷南遺跡では従来考えられなかった多量のナイフ形石器と細石刃・細石核が出土しており、本格的な旧石器時代遺跡の調査と研究が開始されたと言える。

## 2. 旧石器研究の現状

先に述べたように遺跡とその調査数の少なさから旧石器研究は決して進んでいるとは言えず、今後の調査研究に期待されるところであるが、現在までに判明している旧石器遺跡と発掘調査について触れることにより、現段階における旧石器時代の研究成果を概観してみたい。

高知県における旧石器遺物の初検出は、1965年の高知市介良高間原1号墳出土の細石核である。古墳石室内流入土出土の細石核1点であり、旧石器遺跡としての状況は不明であるが、古墳周辺からの混入と考えられ、独立丘陵の頂部に位置する旧石器遺跡の存在が推定される。細石核の石材は良質のチャートであり、半円錐形を呈している。高間原古墳出土の細石核発見後、数少ないながらも地道な分布調査による表採資料が増加していくこととなる。この間の採集資料には八足、宇須々木、影野地、双海中駄場、双海本駄場、広井駄場、竜ヶ迫遺跡等があり、ナイフ形石器、細石核、三稜尖頭器、削器等が採集されている。これらの石器に使用される石材は八足、宇須々木、影野地ではチャートであり、双海中駄場以下の遺跡においては頁岩となっている。これらの遺跡は分布調査密度の高い高知県西部の海岸線及び四万十川流域に分布しており、中央部から東部にかけては新たな遺跡の発見はなく、高間原古墳出土の細石核が唯一の資料となっていた。

1992年には竜ヶ迫遺跡においてナイフ形石器の採集地点の確認調査が行われ、ナイフ形石器、石核、剥片が出土しており、高知県初の旧石器遺跡の調査となった。ナイフ形石器は小形横長剥片を素材とするものであり、石核は瀬戸内技法との関連が指摘される<sup>1)</sup>。また1994・1995年には池ノ上遺跡から国府型と見られるナイフ形石器と剥片類が、楠山遺跡では小形ナイフ形石器と多量の石核と剥片が出土し、多くの接合資料が得られている<sup>2)</sup>。また、楠山遺跡では始良 Tn 火山灰が発掘調査により初めて検出され、考古資料と広域テフラとの層位的確認が行われた<sup>3)</sup>。次いで原産地遺跡としてナシヶ森遺跡の調査が行われており、石器石材原産地である斜面部(A地点)では多量の楔

形石器を中心とした石器群が検出されている。当初、細石刃及び細石核の存在が指摘されていたが、現段階では楔形石器とその削片を中心としており、基本的には縄文時代を中心とする石器群として考えられる。しかしながら、細石核の打面再生剥片と認識されるものもあり、さらなる検討が必要である。A地点に対面する丘陵上のB地点ではナイフ形石器が採集されており、旧石器時代の遺跡であることが確認されている<sup>4)</sup>。

1996年には、従来の高知県における旧石器時代のイメージを一変させる奥谷南遺跡の調査が行われている。奥谷南遺跡は高知県中央部、南国市の山裾部に位置する岩陰遺跡であり、縄文時代の遺跡として認識されていたが調査の結果、岩陰部において縄文時代の包含層である黒色土下に細石刃・細石核の包含層を検出、さらに下層にはナイフ形石器の包含層が確認され、県内初の旧石器時代における層位的調査が行われている。また、出土遺物量もナイフ形石器、細石刃・細石核ともに多量であり、特に細石刃・細石核の出土数は西日本最大とも言える点数であった。奥谷南遺跡の調査は高知県における旧石器研究の大きな飛躍点になるものと考えられる<sup>5)</sup>。また、奥谷南遺跡の調査後、旧石器遺跡の空白地帯であった高知県中央部においても新たな遺跡の発見が相次ぎ、新改西谷遺跡ではチャート製の小形ナイフ形石器が集中的に発見され<sup>6)</sup>、さらに物部川中流域において3ヶ所の旧石器遺跡が確認されている<sup>7)</sup>。この間、西部地域においても大月町において新たな遺跡が4ヶ所発見され、県下的に旧石器時代の状況を比較検討する資料の蓄積が行われている<sup>8)</sup>。

### 3. 旧石器時代の遺跡分布と石材

旧石器時代の遺跡分布を見ると調査密度の差異はあるが、先に述べたように西南海岸部、松田川上流部、四万十川流域（四万十川の場合は散在している）に集中する。中央部では山麓部から物部川流域に連なって分布しており、西南部海岸域、四万十・松田川流域、山麓・物部川流域の3ヶ所のエリアとして捕らえることができる。四国島内においても香川県では備讃瀬戸の島嶼部、徳島県では吉野川北岸流域、愛媛県では芸予諸島、松山平野、肱川流域と高知県に続く西南地域に遺跡の集中分布が見いだせる。全国的に見ても一定の河川流域等に遺跡の分布は集中しており、旧石器時代における遺跡の分布は河川を中心とする特定エリアに限られてくものと考えられる。高知県においても上記の3ヶ所が旧石器時代の活動範囲として認識され、今後においても引き続き遺跡数が増加するものと考えられる。また、高知県東部では現在のところ旧石器時代の遺跡は発見されていないが、徳島県南部の阿南市甘枝遺跡ではチャート製のナイフ形石器、細石刃等が発見されており、那賀川流域から高知県側では奈半利、安芸方面における分布域の存在も考えられ、第4の分布エリアとなる可能性が残されている。

それぞれの分布域における遺跡の石器石材を見てみると、奥谷南及び新改西谷遺跡等の物部川流域エリアではほとんどの石器にチャートが使用されている。四万十川・松田川流域エリアにおいては頁岩・珪質頁岩を中心に使用され、上流域ではチャートの使用も見られる。西南海岸部においても頁岩が使用石材の中心となっている。石材の点では物部川エリアと四万十川上流域がチャート、四万十川中流域・松田川及び西南海岸エリアが頁岩を使用しており、二つの石材分布を示している。チャート、頁岩ともに各地域に見られる在地産の石材であり、二つの使用石材の分布は石材の産出地を反映しており、高知県の旧石器時代における石器石材は、他地域からの搬入ではなく、在地の石材を中心としている。四国の他県においては香川県原産のサヌカイトが広域分布を示す石器石材

## 旧石器時代の変遷

として知られており、瀬戸内沿岸を中心に徳島県吉野川北岸の遺跡群及び愛媛県松山平野の遺跡群はサヌカイトの搬入により石器製作が行われている。また、愛媛県の肱川流域では赤色珪質岩、同じく西南部では頁岩が石器石材の主体を占めており、サヌカイトを除けば在地産石材の使用が石器製作の基本と考えられる<sup>9)</sup>。

石器石材の分布範囲からは、中央構造線を境とした瀬戸内沿岸から吉野川北岸、松山平野にかけての広域使用石材であるサヌカイト使用地域と、中央構造線以南の外帯におけるチャート及び頁岩使用地域に二分され、外帯地域では在地石材であるチャートと頁岩の存在がサヌカイトの搬入・使用を消極的にするものとする。外帯にあってチャートを石器石材として使用する地域は、紀伊半島から東海地方の一部に広がっており、サヌカイト等の広域使用石材以外のチャート使用を中心とする太平洋沿岸地帯として分布圏を見ることが出来る。頁岩は四国南西部を中心に、東九州では流紋岩等の在地石材がやはり使用されており、チャート使用地帯から頁岩・流紋岩使用地帯へとつながる石材使用分布圏が考えられる。

### 4. ま と め

現在のところ県内の旧石器はすべて後期旧石器時代に属している。全国的にも後期旧石器地時代をさかのぼる中期・前期旧石器については、昨年のねつ造事件発覚により、ほとんど壊滅の状況となっている。一部にはねつ造事件とは関係なく3～4万年とされる資料も存在するが、出土層位、地層年代等についてさらに検討が必要とされている。

高知県における旧石器時代の編年は資料数の制約もあり不確定であるが、AT降灰以前にさかのぼるものなく、約2万年を上限としていると言える。但し楠山遺跡の石器群については、形態的に古さを感じさせるものがあり、出土層位とAT層の堆積状況も含めて検討中である。高知県における旧石器のひとつの大きな様相は、愛媛県を含めた西南部における瀬戸内技法及び国府型ナイフ形石器の存在である。瀬戸内技法及び国府型ナイフ形石器はサヌカイトと密接に結びついた石器製作技術であり、近畿から瀬戸内沿岸部に分布するが、その周辺部においては在地石材を使用しており、愛媛県和口遺跡において最もまとまって確認されている。県内では西南海岸部の遺跡において類似資料が認められるが、横長剥片素材のナイフ形石器が多く、時期的に後出する可能性が考えられる。瀬戸内技法の影響は石材の違いを越えて四国西南沿岸部を南下しており、県内中央部との大きな違いを見せている。中央部では縦長または不定形剥片を素材とする一側刃及び二側刃加工のナイフ形石器が存在しており、チャートを使用することからも、より東の地域との類似性を見ることが出来る。また、新改西谷遺跡のように非常に小型化したナイフ形石器の一群が存在しており、やはり時期差として考えられる。細石刃と細石核については奥谷南遺跡の資料がそのほとんどを占めるが、多量に出土した細石核には円錐・円形石核とともに船底型を呈する船野型細石核が存在しており、複数の要素が混在している<sup>10)</sup>。細分については検討中であるが、他地域との比較検討により多様性の中に細石核の地域性と時間的変化も看取できるのではないかと考えられ、検討課題となっている。

遺跡・石器と旧石器時代の環境に関しては資料的制約も含め力不足であり、ほとんど触れることができなかったが、遺跡の分布と使用石材については、石材の範囲と産状をより詳細に調査することにより石器製作に関わる地域環境への適応を知ることができ、石器組成からは旧石器文化の地域

間交流及び時間的変遷を追うことができことから、これらを総合することにより旧石器時代における環境と遺跡の関連について追求することができよう。

引用文献

- 1) 森田, 1994, 竜ヶ迫遺跡 高知県大月町竜ヶ迫遺跡ムクリ山遺跡 2-12
- 2) 森田, 1995, 池ノ上・楠山遺跡 高知県埋蔵文化財センター年報 4 28
- 3) 森田, 1996, 楠山遺跡調査概要 第13回中・四国旧石器文化談話会発表要旨 15-20
- 4) 門脇, 1995, ナシヶ森遺跡発掘調査概要報告書
- 5) 松村・山本, 1997, 高知県南国市奥谷南遺跡 考古学ジャーナル416
- 6) 森田, 1998, 高知県西谷遺跡 第15回中・四国旧石器文化談話会発表資料
- 7) 松村・山崎, 2000, 高知県出土の後期旧石器時代新出資料と細石刃文化期の遺跡 第17回中・四国旧石器文化談話会 45-83
- 8) 前田, 2000, 大月町文化財地図 大月町文化財報告書第3集
- 9) 多田, 1997, 中・四国地方における石器使用石材をめぐる諸問題 愛媛県 第14回中・四国旧石器文化談話会発表要旨 58-68
- 10) 松村, 2000, 奥谷南遺跡の発掘調査と出土資料 第17回中・四国旧石器文化談話会 1-74

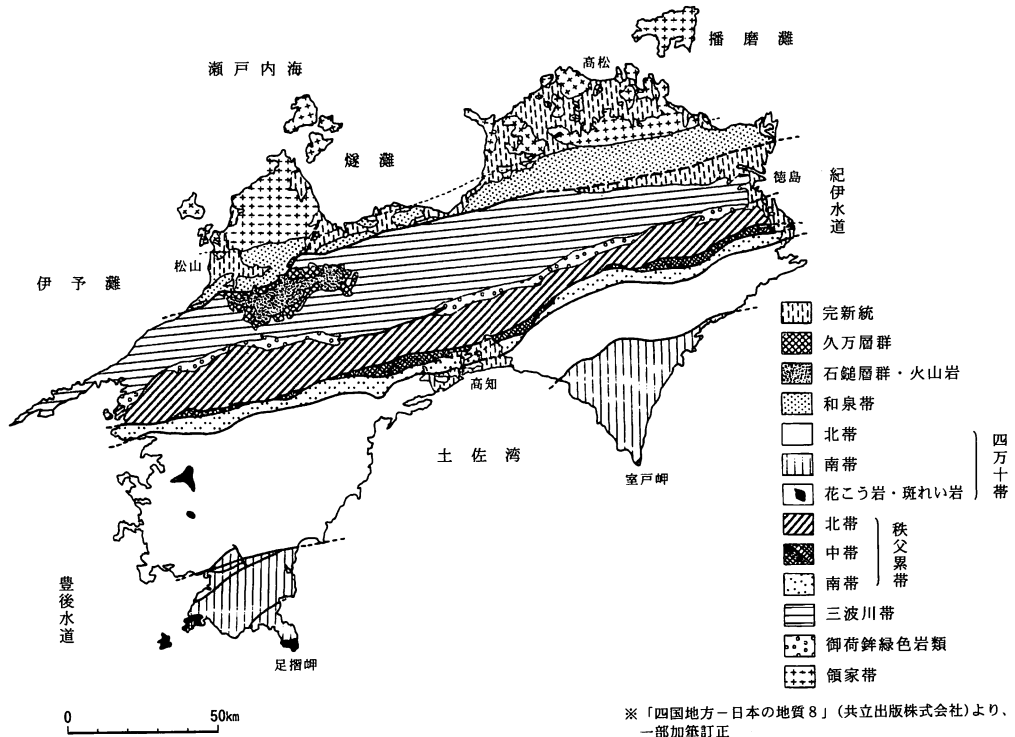


図1. 四国地質図

旧石器時代の変遷

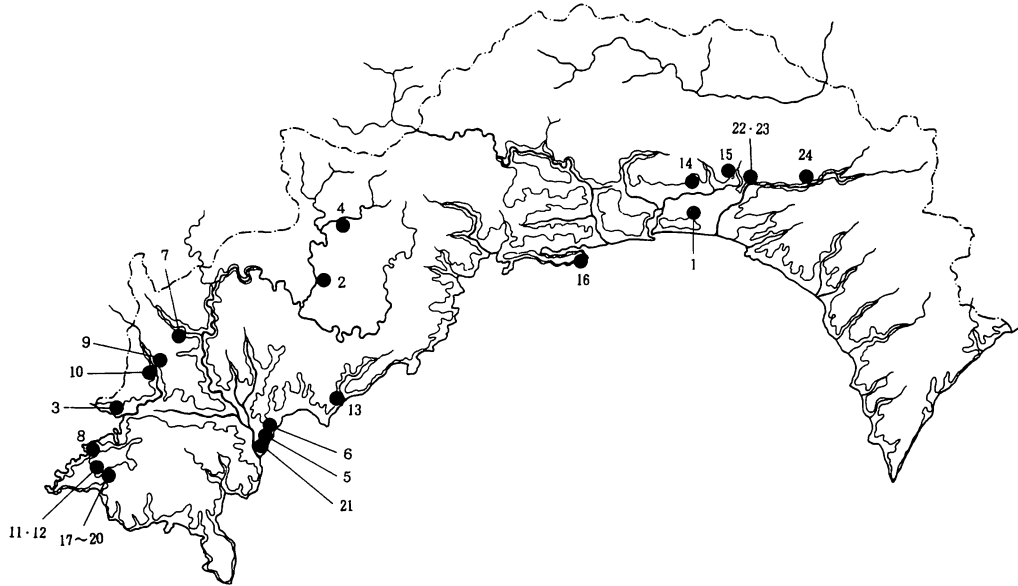
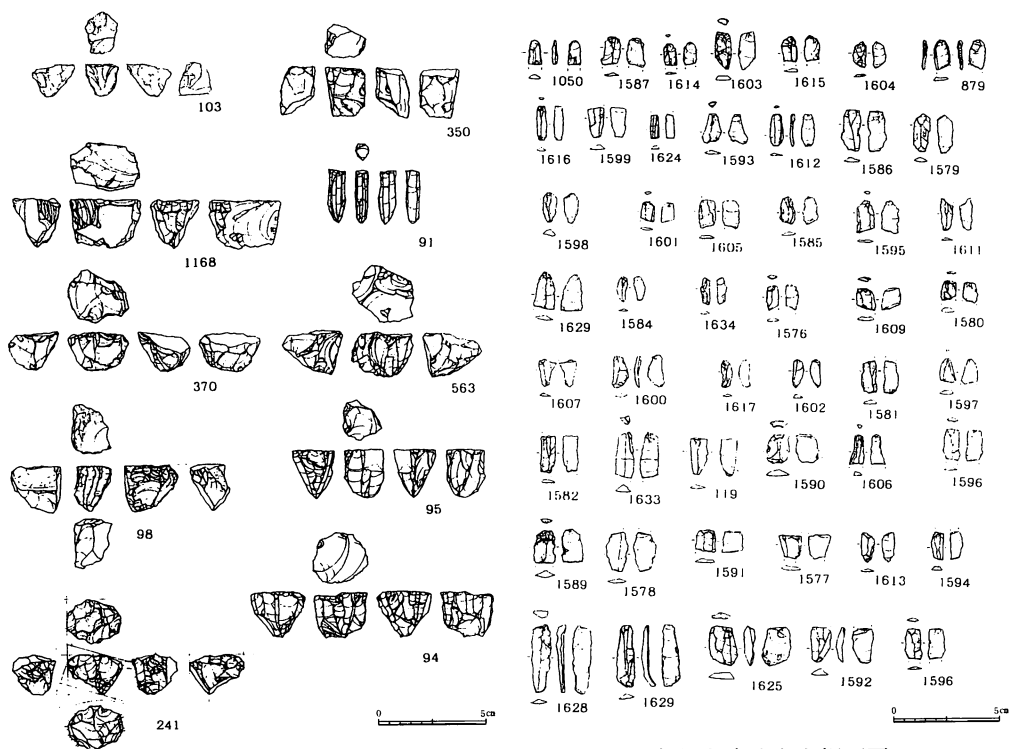


図2. 高知県旧石器時代遺跡位置図

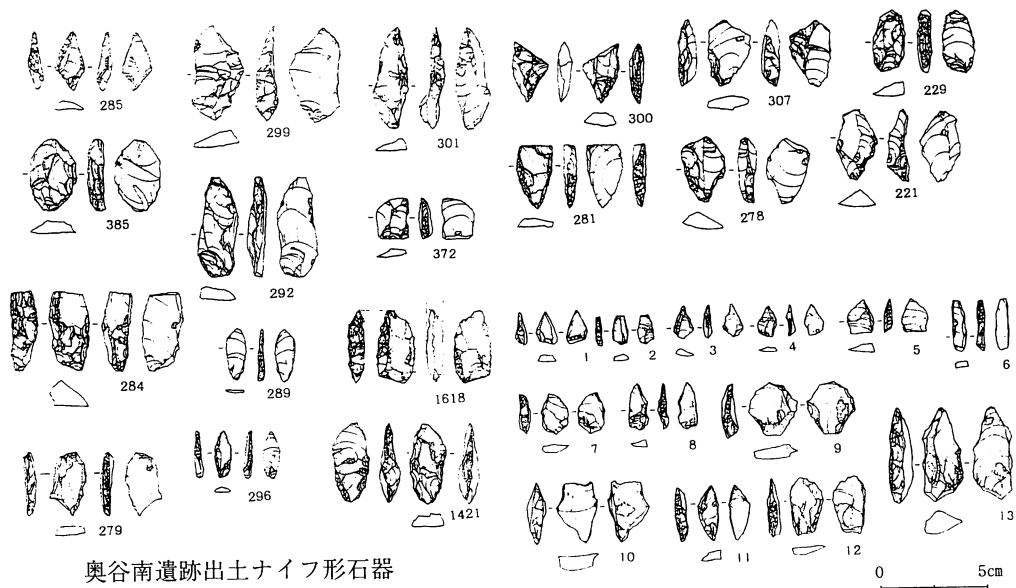
表1. 高知県旧石器時代遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	採集・調査年	出土遺物	石材
1	高間原古墳(1号墳)	高知市	1965	細石核1点	チャート
2	八足遺跡	大正町	1971	削器1点	チャート
3	宇須々木遺跡	宿毛市	1975	ナイフ形石器1点	チャート
4	影野地遺跡	禰原町	1984~1987	ナイフ形石器2点・搔器・削器	チャート・頁岩
5	双海中駄場遺跡	中村市	1988	ナイフ形石器1点	ホルンフェルス
6	双海本駄場遺跡	中村市	1989	三稜尖頭器1点	サヌカイト
7	広井駄場遺跡	西土佐村	1990	細石核1点	頁岩
8	竜ヶ迫遺跡	大月町	1992	ナイフ形石器2点	頁岩
9	池ノ上遺跡	宿毛市	1994	ナイフ形石器1点	頁岩
10	楠山遺跡	宿毛市	1995	ナイフ形石器1点他	頁岩
11	ナシヶ森遺跡(A地点)	大月町	1992~1998	角錐状石器	珪質頁岩
12	ナシヶ森遺跡(B地点)	大月町	1992~1994	ナイフ形石器5点・角錐状石器	珪質頁岩
13	曾我城跡	大方町	1996	尖頭器1点	頁岩
14	奥谷南遺跡	南国市	1996	ナイフ形石器52点・尖頭器23点・細石刃400点・細石核150点	チャート・頁岩
15	新改西谷遺跡	土佐山田町	1997	ナイフ形石器61点	チャート
16	竜遺跡	土佐市	1998	ナイフ形石器1点	チャート
17	銚土越遺跡	大月町	1999	ナイフ形石器1点	珪質頁岩
18	フキノ谷山遺跡	大月町	1999	ナイフ形石器1点	珪質頁岩
19	池田遺跡	大月町	1999	角錐状石器1点	頁岩
20	大内遺跡	大月町	1999	翼状剥片1点	珪質頁岩
21	佐野楠目山遺跡	土佐山田町	1999	ナイフ形石器・台形石器・角錐状石器	チャート
22	イハサキ・タイノウチ遺跡	土佐山田町	1999	搔器	チャート
23	永野長岡遺跡	香北町	1999	台形様石器	チャート
24	平野茶園遺跡	中村市	1999	ナイフ形石器・細石核素材	頁岩



奥谷南遺跡出土細石核

奥谷南遺跡出土細石刃



奥谷南遺跡出土ナイフ形石器

新改西谷遺跡出土ナイフ形石器

図3. 主要な旧石器類

(松村 2000 第17回中・四国旧石器文化談話会資料を改変)

旧石器時代の変遷

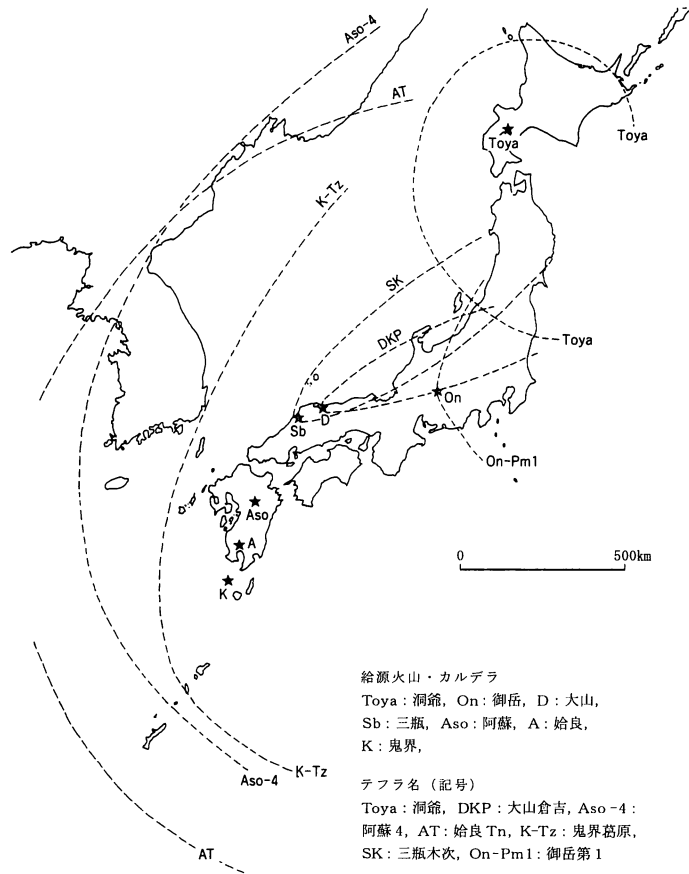


図4. 日本列島の主要広域テフラ分布図

(町田・新井 1992 火山灰アトラスを改変)

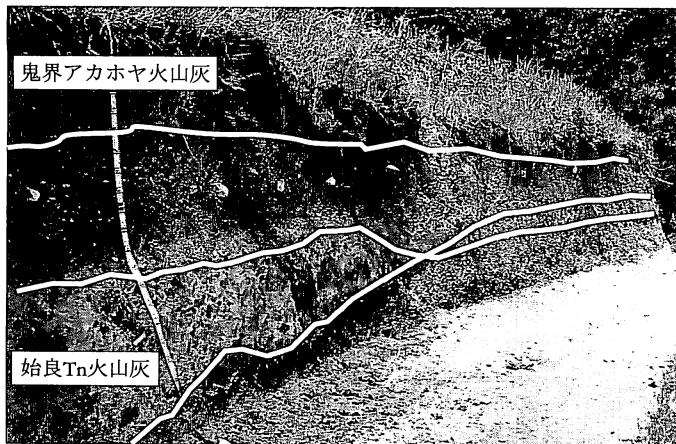


図5. 四国南西部の鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah) と始良 Tn 火山灰 (AT)

上位がK-Ah, 下位がAT.  
 宿毛市小川

(町田・新井 1992 火山灰アトラスを改変)

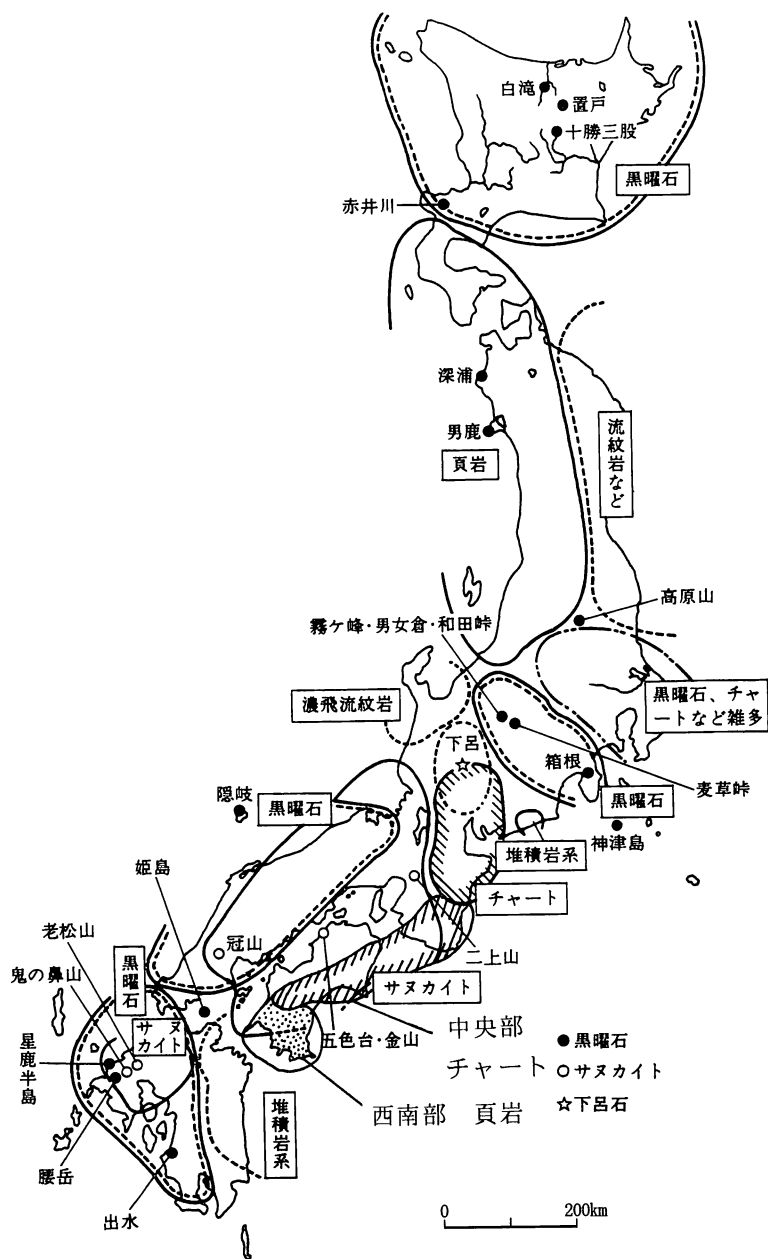


図6. 後期旧石器文化後半の石材の分布, 主要原石産地

(岡村 1990 日本旧石器時代史を改変)